２０２６年度第２学期　面接授業科目一覧（熊本学習センター開講科目）

科　目　区　分	科　　目　　名	授 業 日	担　当　講　師	追加登録 受付期限日
専門科目:人間と文化	**１６・１７世紀の日本と欧州**	10 月 17 日(土) 10 月 18 日(日)	杉森　哲也 放送大学教授	追加登録受付期間外の開講のため追加登録は不可
専門科目:心理と教育	**災害支援の心理学**	10 月 24 日(土) 10 月 25 日(日)	古賀　香代子 九州ルーテル学院大学教授	10 月 21 日(水) 事前申請のみ
専門科目:自然と環境	New **地史･古生物学**	10 月 24 日(土) 10 月 25 日(日)	小松　俊文 熊本大学教授	10 月 21 日(水) 事前申請のみ
専門科目:心理と教育	認定心理士必須科目 **心理検査法基礎実習**	10 月 31 日(土) 11 月　1 日(日)	橋口　真人 東海大学九州キャンパス学生総合支援室	10 月 24 日(土)
基盤科目	PC 必須 **新･初歩からのパソコン**	10 月 31 日(土) 11 月　1 日(日)	久保田　真一郎 熊本大学准教授	10 月 24 日(土)
専門科目:心理と教育	PC 必須　認定心理士必須科目 **心理学実験２**	11 月　7 日(土) 11 月　8 日(日)	寺本　渉 熊本大学教授	10 月 31 日(土)
専門科目:生活と福祉	New **高齢者のヘルスプロモーション**	11 月　7 日(土) 11 月　8 日(日)	中村　五月 熊本大学准教授	10 月 31 日(土)
専門科目:生活と福祉	実習あり(要保険加入) **急変時対応と身体計測データ活用**	11 月 15 日(日) 11 月 22 日(日)	副島　弘文 熊本大学教授	11 月 8 日(日)
専門科目:人間と文化	学外研修あり(要保険加入) **西洋建築史研究のエッセンス**	11 月 21 日(土) 11 月 22 日(日)	吉武　隆一 熊本大学准教授	11 月 14 日(土)
基盤科目:外国語	New **実践的異文化コミュニケーション**	12 月　5 日(土) 12 月　6 日(日)	シムズ　ランダー　ブライアント 熊本大学講師	11 月 28 日(土)
専門科目:社会と産業	**沿岸域の生物多様性と水産資源**	12 月 12 日(土) 12 月 13 日(日)	逸見　泰久 熊本大学名誉教授	12 月 5 日(土)
基盤科目	教科書購入あり **レポート作成の基本**	12 月 13 日(日) 12 月 20 日(日)	渡邊　淳子 熊本保健科学大学教授	12 月 6 日(日)
専門科目:人間と文化	**戦国時代論**	12 月 19 日(土) 12 月 20 日(日)	稲葉　継陽 熊本大学教授	12 月 12 日(土)
専門科目:　社会と産業 (ライブ Web 授業)	**人口減少時代の地域づくり**	11 月 07 日(土) 11 月 08 日(日)	金岡　省吾　他３名 放送大学教授	10 月 28 日(水)
専門科目:自然と環境 (ライブ Web 授業)	New **光と色の化学―色編**	11 月 28 日(土) 11 月 29 日(日)	藤本　斉 前熊本大学教授	11 月 18 日(水)

★面接授業情報は、放送大学ウェブサイト→システム WAKABA→学内リンク「面接授業(第２学期)のページ」
（https://mensetsu-cnh.ouj.ac.jp/2/）よりご確認ください。
追加登録の申請方法、授業概要や日程変更等のお知らせを見ることができます。

科目コード	2689014	**授業概要**	**【授業内容】** **----------** **この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD：Bring Your Own Device）で実施します。** **【受講前の準備学習等】** **【受講者が当日用意するもの】** **【その他（特記事項）】** **を読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。** **----------** これからパソコンの使い方とオンライン授業の受講方法を学びたいと思っている初心者向けの授業です。パソコンの操作方法と放送大学の情報通信環境及びオンライン授業の受講方法を学びます。学習センターのWi-Fiへの接続方法、ウェブページ、学生用電子メール、受講科目の登録や成績の確認ができるシステムWAKABAの利用方法と、附属図書館の電子情報サービスを使った情報収集の方法を実習で学びます。さらに、オンライン授業のテキストと動画の閲覧、小テストの提出、ディスカッションへの参加、レポート提出を体験します。 **【到達目標】** パソコンの起動・終了、マウス操作、文字入力、文書作成ソフトの起動、ファイル保存、フォルダ操作、ウェブサイト閲覧、電子メール利用、情報セキュリティ、情報発信マナー、WAKABAの主な機能、Web通信指導、Web単位認定試験、OPACでの図書検索、電子書籍の閲覧、論文検索、オンライン授業、ライブWeb授業の受講等、放送大学での学習に必要なパソコンスキルの基礎的なことを理解し、実践できるようになる。 **【授業テーマ】** 第1回 パソコンの基本操作（キーボード入力・マウス操作・オンライン授業に必要な基本スキル） 第2回 文書作成とPDF保存 第3回 Webとメールの活用 第4回 セキュリティ 第5回 システムWAKABA・自己学習サイト 第6回 放送大学附属図書館の電子情報サービス 第7回 オンライン授業の実践（体験版を受講） 第8回 まとめと振り返り（第7回で体験したオンライン授業の感想をレポートにまとめオンラインで提出） **【学生へのメッセージ】** 基本的なパソコン操作と放送大学の学習に役立つパソコンの使い方を初歩から学びます。実習中は、講師とアシスタントが丁寧にサポートするので、パソコンを使い慣れていない方でも安心して受講してください。 **【受講前の準備学習等】** インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」をご参照ください。 学習センターの無線LANに接続したことがない方、登録していない方は、所定の手続を面接授業の実施前までに行う必要があります。システムWAKABAからオンラインで申請できます。授業実施前日までには、無線LAN利用申請（研修を含め所要時間約1時間）をしておくことを強く推奨します。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 「学生生活の栞」に掲載されている放送大学のシステムWAKABA（教務情報システム）や各種システム、情報セキュリティガイドラインを読んで理解しましょう。自宅にパソコンがある場合は、そのパソコンを使ってシラバスの内容を予習してください。受講後は、受講時に配付する「新・初歩からのパソコンテキスト」を通読し、授業内容を復習してください。 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。とくに、授業前と後でのパソコンスキルの伸びを重視します。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**新・初歩からのパソコン**		
科目区分	基盤科目		
ナンバリング	110		
定員	20名		
担当講師	クボタ　シンイチロウ 久保田　真一郎 熊本大学半導体・デジタル研究教育機構准教授		
日程 実施時間	10月31日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 11月1日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10		
実施会場	熊本学習センター		**【受講者が当日用意するもの】** 1．持参する端末 ノートパソコンとACアダプタ（重要:授業中は、ずっとパソコンを使用します）を持参してください。（タブレット、スマートフォンは不可）。 2．OSの指定 Windows11が必要です。 3．ソフトのインストール Wordが必要です。 配布資料をPDF形式ファイルで提供しますので、(Acrobat Readerをインストールするなど)PDFファイルが閲覧できるようにしておいてください。 4．その他 Microsoft Office 2016以降またはMicrosoft365のWordを対象とします。 授業当日は、学生証を必ず持参してください（授業内でログイン操作を伴う実習があります）。 また、USBメモリ（※市販されている一番安価な物で結構です。）とイヤホンを持参してください。 **【教科書】** ・新・初歩からのパソコンテキスト（情報リテラシー面接授業タスクフォース／放送大学／¥0） 授業当日に配付します。 **【参考書】** ・新・初歩からのパソコン電子版テキスト（PDF）（情報リテラシー面接授業タスクフォース／放送大学／¥0） ダウンロード方法は授業で説明します。 **【その他（特記事項）】** この科目は2009～2015年度「基礎科目」に該当します。 (履修制限)「大学で学ぶためのパソコン基礎」の単位を修得済みの方は登録できません。 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。

科目コード	2698277	**授業概要**	**【授業内容】** 本授業は、文章作成の基本となる「何を」「どう書くか」という２つの観点から進めていきます。文章が論理的であるとはどういうことかということから説き起こし、「序論・本論・まとめ」からなる文章の基本構成、テーマ設定から執筆に至るまでの手順、情報の要約や言い換えの仕方、文章のマナー等を随所に盛り込みながら、論理的な文章の作成に取り組みます。なお、授業は４～５人編成のグループ学習の形を取ります。 **【到達目標】** 伝えたいことを明確にし、論理的な構成の文章で伝えることができるようになる。 **【授業テーマ】** 第1回 レポートの基本構造・レポート「課題」の説明 第2回 わかりやすい文を書く 第3回 文献の読み込み 第4回 考える（問いと答え）・要約と言い換え 第5回 パラグラフで考える / 主張を考える（目標規定文をつくる） 第6回 レポート作成のマナー 第7回 序論とまとめを書く 第8回 まとめ **【学生へのメッセージ】** 「書く」行為は「考える」行為に他なりません。講義を通じて論理的に考える習慣を身につけましょう。授業では、レポートを完成するために学生自らが関連資料を探し、読みこんだ後に、グループディスカッションに臨むことになります。 **【受講前の準備学習等】** 指定した教科書は、100ページ程度の分量ですから、事前に目を通しておいてください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**レポート作成の基本**		
科目区分	基盤科目		
ナンバリング	120		
定員	20名		
担当講師	ワタナベ　ジュンコ 渡邊　淳子 熊本保健科学大学アカデミックスキル支援センター教授		
日程 実施時間	12月13日(日) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～17:10 12月20日(日) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10		
実施会場	熊本学習センター		**【受講者が当日用意するもの】** 最終レポートは、原稿用紙を配りますので、手書きで構いません。パソコンでレポート作成をしたい方はパソコン及びUSBメモリを持参してください。 **【教科書】** ・〈改訂版〉大学生のための論文・レポートの論理的な書き方（渡邊淳子／研究社／¥1,430／ISBN=9784327384883） ※各自、書店・インターネット等で事前に購入してください。入手に時間がかかる場合がありますので、早めの注文をお勧めします。 **【その他（特記事項）】** この科目は2009～2015年度「基礎科目」に該当します。 （履修制限）「レポート作成の基本2021」「レポート作成の基本2022」「レポート作成の基本2023」の単位を修得済みの方は登録できません。

科目コード	2698285	**授業概要**	**【授業内容】** <この授業は英語で行います。英語で初級〜中級レベルの日常会話ができる方を対象としています。> 異なる文化的背景をもつ人々とコミュニケーションを行ううえで、言語理解は重要な要素ですが、それだけでは十分ではありません。本授業では、文法・語彙・発音といった言語面の学習を超え、文化的気づきを高める実践的なアプローチを通して、異文化間コミュニケーションを円滑に行うための考え方や方略を学びます。 **【到達目標】** 本授業を通して、効果的な異文化コミュニケーションを支える主要な理論・概念・戦略について、実践的かつ応用的に理解できるようになる。さらに、抽象的な枠組みの理解にとどまらず、これらの知見を学術的場面、職業的場面、日常的な場面など、文化的背景の異なる人々との実際のやり取りの中で活用できるようになる。 **【授業テーマ】** 第1回 始めよう！異文化交流シミュレーション 第2回 異文化コミュニケーション能力の基礎 第3回 文化的知性（Cultural Intelligence）：知識基盤の構築（その1） 第4回 文化的知性（Cultural Intelligence）：知識基盤の構築（その2） 第5回 コミュニケーション意欲（Willingness to Communicate）の理解 第6回 異文化コミュニケーションの実践戦略 第7回 スモールトーク：小さな会話が大きな意味を持つ 第8回 まとめ **【学生へのメッセージ】** 本授業は実践的な応用を重視しており、さまざまなアクティブラーニング活動を取り入れています。これらの活動への積極的な参加は、学びを深め、本授業で扱う力を身につけるうえで重要な要素となります。 **【受講前の準備学習等】** 異文化体験についての振り返りを促し、授業活動への準備となる短いライティング課題に取り組みます。なお、シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**実践的異文化コミュニケーション**		
科目区分	基盤科目：外国語		
ナンバリング	120		
定員	40名		
担当講師	シムズ　ランダー　ブライアント（シムズ　ランダー　ブライアント） 熊本大学大学院人文社会科学研究部講師		**【受講者が当日用意するもの】** 英和辞書（紙、電子は問わない）を持参してください。最終レポートは、原稿用紙を配りますので、手書きで構いません。パソコンでレポート作成をしたい方はパソコン及びUSBメモリを持参してください。 **【教科書】** 授業当日にプリントを配付します。
日程 実施時間	12月5日(土) 第１時限　10:00〜11:30 第２時限　11:40〜13:10 第３時限　14:00〜15:30 第４時限　15:40〜17:10 12月6日(日) 第１時限　10:00〜11:30 第２時限　11:40〜13:10 第３時限　14:00〜15:30 第４時限　15:40〜16:25 試験・レポート等　16:25〜17:10		**【その他（特記事項）】** この科目は2009〜2015年度「共通科目：外国語」に該当します。
実施会場	熊本学習センター		

科目コード	2698293	**授業概要**	**【授業内容】** フレイルは、健康と健康悪化（要介護状態）の境界に位置しており、適切な予防や対策によって改善が可能であることが特徴的です。高齢者の健康悪化は「年だからしょうがない」と諦めてしまうことがありませんか。本当に“しょうがない”のでしょうか。老年期に起こりやすい健康障害をテーマに選定し、諦める前にできることについて授業で具体的に学んでいきます。老年期の健康は個別性が高く、老年期までの生活習慣や健康状態、そして環境が関係します。すなわち、高齢者の人生に直接的にかかわります。老年期の健康支援では、専門職は“高齢者がこれまでどのような生活を送ってきたのか、いまどのような思いで生活されているのか、そしてこれからどのような人生を過ごしたいのか、傾聴し、支援の方向性を高齢者や家族とともに考えます。 **【到達目標】** フレイルサイクルを理解できる。 高齢者に特徴的なフレイルとフレイル予防のための必要な支援について説明できる。 **【授業テーマ】** 第1回 高齢者の健康と生活の多様性 第2回 高齢者のヘルスプロモーション①予防、フレイルサイクル 第3回 高齢者のヘルスプロモーション②社会参加、コミュニケーション（ヒアリングフレイル） 第4回 高齢者のヘルスプロモーション③食生活・活動支援（サルコペニア、オーラルフレイル、ロコモティブシンドローム） 第5回 高齢者のヘルスプロモーション④活動・休息支援（特に、睡眠パターン、睡眠障害） 第6回 高齢者のヘルスプロモーション⑤排泄支援（排尿障害、排便障害、腸内環境） 第7回 高齢者のヘルスプロモーション⑥認知症（認知症予防、認知症になっても安心して暮らせる社会 第8回 高齢者のヘルスプロモーション⑦認知症と地域共生社会、まとめ **【学生へのメッセージ】** 担当教員は、これまで老年看護学の教育・研究に携わってきました。この授業では、授業テーマに沿って実践経験をふまえたお話しをしてまいります。老年期は私も経験したことがないステージですので、高齢者から生活史を聴かせていただく機会を意識的につくりながら対象理解を深めています。高齢者が歩んできた道は、私たちが歩む道でもあります。高齢者が健康で、尊厳を保ちながら生活することを支援するために、私たちにできることは何か、一緒に考えていきましょう。 **【受講前の準備学習等】** シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**高齢者のヘルスプロモーション**		
科目区分	専門科目：生活と福祉		
ナンバリング	320		
定員	30名		
担当講師	ナカムラ　サツキ 中村　五月 熊本大学生命科学研究部准教授		
日程 実施時間	11月7日(土) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～17:10 11月8日(日) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10		
実施会場	熊本学習センター		**【受講者が当日用意するもの】** パソコンでレポートを作成したい方はパソコンおよびUSBメモリを持参してください。 **【教科書】** 授業当日にプリントを配付します。

科目コード	2698307
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**急変時対応と 身体計測データ活用**
科目区分	専門科目：生活と福祉
ナンバリング	320
定員	20名
担当講師	ソエジマ　ヒロフミ 副島　弘文 熊本大学保健センター教授
日程 実施時間	11月15日(日) 第１時限　10:00～11:30 第２時限　11:40～13:10 第３時限　14:00～15:30 第４時限　15:40～17:10 11月22日(日) 第１時限　10:00～11:30 第２時限　11:40～13:10 第３時限　14:00～15:30 第４時限　15:40～16:25 試験・レポート等　16:25～17:10
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
この授業では、下記に示す8つのテーマに沿って、救急車で受診すべき胸痛、心肺蘇生法の体験、脳梗塞防止のための不整脈の自己確認の実践、歯周病の危険性、健康診断の内容、心不全予防に向けたレジスタンス運動の実践、家庭血圧測定の意義と実践、腎機能についての講義を行なっていきます。体験される方は動きやすい格好で受講してください。昨年はみなさん和気あいあいとして体験されていましたが、必ずしも体験されなくても良いです。本講義では、急変時や疾病回避のための新しい知識や習慣を身につけていただくことを目標としています。

【到達目標】
学生が心肺蘇生や自分の脈・体重・血圧などの測定やレジスタンス運動の体験をし、急変時の対応について理解を深め、自分の身体計測を正しく行い、そのデータを有効に活用できるようになる。

【授業テーマ】
第1回 胸痛について考えよう
第2回 目の前で家族・同僚が意識を失ったらどうする？～AEDを用いた心肺蘇生法の体験～
第3回 脈を測ろう～自分で脈のリズムを確認して心房細動早期発見～
第4回 タバコと歯周病と動脈硬化
第5回 健康診断について考えよう
第6回 体重測定と心不全～レジスタンス運動の体験～
第7回 血圧を測ろう～正しい血圧測定の実践～
第8回 腎機能を知ろう

【学生へのメッセージ】
自分の身体は自分でメンテナンスする「メディカルケア＆自己管理」という考え方が広まりつつあります。病院で計測される測定値以上に家庭において繰り返し計測した測定値が重要とされるようになりました。各自持たれている測定機器を利用して健康増進を図りましょう。

【受講前の準備学習等】
心肺蘇生に関して、調べておいてください。健康診断を受診したことのある方は自分のデータを確認しておいてください。ない方は、可能であれば、脈・体重・血圧を測定しておいてください。

【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。

【教科書】
教科書は使用しません。

【その他（特記事項）】
この授業は、「学生教育研究災害傷害保険」加入者を対象としていますので、未加入の方は必ず前日までに最寄の学習センターにて加入してください。（面接授業開設科目一覧P.5参照）

科目コード	2698315
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**災害支援の心理学**
科目区分	専門科目：心理と教育
ナンバリング	320
定員	30名
担当講師	コガ　カヨコ 古賀　香代子 九州ルーテル学院大学人文学部教授
日程 実施時間	10月24日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 10月25日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
災害時の支援のひとつに心理的支援があります。近年の東日本大震災や熊本地震、能登半島地震などを通し実際の心理的支援について概観します。心理的支援の基本となるサイコロジカル・ファーストエイドの紹介のほか、災害時の被災者の心理状態、時系列の心理的変化、災害の現場でどんな支援を行うのか、被災地の状況を理解し地域社会と協働することなど説明します。また、支援に入る準備や支援者の心理的ケアについても触れます。ここでは講義に加え、グループワークで話し合いを行いながら、それぞれの理解を深めていく予定です。

【到達目標】
災害時の心理的支援として用いられるサイコロジカル・ファーストエイドの目的と内容、使用方法を説明できるようになる。
災害時の被災者や支援者の心理について理解し、心理的支援の内容や支援体制を概説できるようになる。
災害支援を行うために準備することや心構え、セルフケアの重要性を説明できるようになる。

【授業テーマ】
第1回 災害とは何か
第2回 災害時の心理的支援①アセスメントと支援体制
第3回 災害時の心理的支援②こころと身体
第4回 災害時の心理的支援③支援の実際
第5回 被災時の心理的支援①発災からの支援体制構築まで
第6回 被災時の心理的支援②さまざまな対応
第7回 支援者の心理
第8回 まとめ

【学生へのメッセージ】
さまざまな災害が世界各地で発生しています。2024年も能登半島地震で甚大な被害状況からの始まりでした。ここでは災害支援について、心理学の立場で説明をしていきます。尚、講義では災害時の写真等資料を使用予定です。人によっては不調を起こす可能性があることをお断りしておきます。

【受講前の準備学習等】
事前にサイコロジカル・ファーストエイドを確認しておいてください。(※ウェブサイトで見ることができます。)また、講義で取り扱う東日本大震災や熊本地震などの災害の情報は被災地県庁などのホームページで確認できますので、参考にしてください。

【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。

【教科書】
授業当日にプリントを配付します。

【その他（特記事項）】
心理的支援の基本の一つは多様性を理解することです。グループワークや意見のシェアリングを通して人との関わりによって起きてくることを体感することも今回の学習のねらいの一つとしています。

科目コード	2689189
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**心理検査法基礎実習**
科目区分	専門科目：心理と教育
ナンバリング	320
定員	30名
担当講師	ハシグチ　マサヒト 橋口　真人 東海大学九州キャンパス学生総合支援室
日程 実施時間	10月31日(土) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～17:10 11月1日(日) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～16:25
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
心理検査は、パーソナリティの個人差を測定するために用いられるものです。本授業では、心理検査の理論的背景も含めた基礎知識を学んだ上で、３つの心理検査を体験します。また、各種心理検査の特徴と限界を把握することと合わせて、実習から自己理解を深めることを目的とします。それらを通し検査自体が有効な支援技法ともなりうることを修得します。受講生の皆さんは、原則として８回の授業すべてに出席し、３つの実習それぞれについてレポートを提出する必要があります。

【到達目標】
心理検査法を「検査者」や「被検査者」として体験的に学ぶことにより、心理検査を実施することの意義と具体的手続き、及び心理検査を実施する上での倫理を説明できるようになる。
検査の結果を適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。

【授業テーマ】
第1回 心理検査の基礎知識（歴史、種類と分類、目的など）
第2回 心理検査実習１特性的自己効力感尺度
第3回 心理検査実習２矢田部ギルフォード性格検査
第4回 所見の書き方、実習１・２のレポート執筆指導
第5回 心理検査実習３バウム・テスト
第6回 実習３のレポート執筆指導
第7回 テスト・バッテリー、結果の報告の仕方
第8回 心理検査における倫理

【学生へのメッセージ】
心理検査に関して問題意識を持ち、積極的な態度で受講してください。本授業が、自分自身を見つめ直す機会となれば幸いです。

【受講前の準備学習等】
シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題の内容について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。
なお、この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、４単位程度を修得済みであることが望ましいです。事前に上記の講義を受講することが困難な場合には､放送大学のインターネット配信で｢心理学概論('24)｣、｢心理学研究法('20)｣、｢心理学統計法('21)｣を視聴してください。

【成績評価の方法】
成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。

【受講者が当日用意するもの】
授業当日は、定規（15cm以上)、電卓、黒ボールペン、蛍光ペン、4B鉛筆、消しゴムを持参してください。また、パソコンでレポートを作成したい方はパソコン及びUSBメモリを持参してください。

【教科書】
授業当日にプリントを配付します。

【参考書】
・心理検査の実施の初歩（願興寺礼子、吉住隆弘 編／ナカニシヤ出版／¥2,860／ISBN=9784779503870）

科目コード	2689146		**【授業内容】** **----------** **この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD：Bring Your Own Device）で実施します。** **【受講前の準備学習等】** **【受講者が当日用意するもの】** **【その他（特記事項）】** **を読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。** **----------** 心理学における実験的研究を3つ（大きさの錯視、自由再生による記憶の系列位置効果、メンタルローテーション）取り上げます。受講生の皆さんは、それらの実験に、実験者及び参加者として参加し、得られた結果をレポートにまとめます。授業を通して、心理学の仮説設定や、実験の方法、データの整理、レポートの書き方について理解することを目指します。受講生の皆さんは、原則として8回の授業すべてに出席し、３つの実験それぞれについてレポートを提出する必要があります。 **【到達目標】** 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。 実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 **【授業テーマ】** 第1回 ガイダンス 第2回 実験1 大きさの錯視実験の実施 第3回 実験1 大きさの錯視実験の結果の整理 第4回 レポートのまとめ方 第5回 実験2 自由再生による記憶の系列位置効果実験の実施 第6回 実験2 自由再生による記憶の系列位置効果実験の結果の整理 第7回 実験3 メンタルローテーション実験の実施 第8回 実験3 メンタルローテーション実験の結果の整理 **【学生へのメッセージ】** 心理学は実証的な方法に基づいて人間の心と行動を研究する科学です。心理学実験を体験することによって、事実と解釈の区別を学ぶとともに、人間の行動についての知識を生み出す過程を学んで頂きたいと思います。 **【受講前の準備学習等】** シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし､実習課題について､あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 なお、この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、４単位程度を修得済みであることが望ましいです。事前に上記の講義を受講することが困難な場合には､放送大学のインターネット配信で｢心理学概論('24)｣、｢心理学研究法('20)｣、｢心理学統計法（'21)｣を視聴してください。 インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の栞」をご参照ください。OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**心理学実験２**		
科目区分	専門科目：心理と教育		
ナンバリング	320		
定員	24名		
担当講師	テラモト　ワタル 寺本　渉 熊本大学大学院人文社会科学研究部教授		
日程 **実施時間**	11月7日(土) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～17:10 11月8日(日) 第１時限 10:00～11:30 第２時限 11:40～13:10 第３時限 14:00～15:30 第４時限 15:40～16:25		
実施会場	熊本学習センター	**授業概要**	**【受講者が当日用意するもの】** １．持参する端末 ノートパソコンを持参してください。 ２．OSの指定 種類は問いません（Windows、macOS、ChromeOS等）。 ３．ソフトのインストール ・ブラウザはMicrosoft Edge（エッジ）、Google Chrome（クローム）、Mozilla Firefox（ファイアーフォックス）、Safari（サファリ）のいずれかが必要です。 ・Wordが必要です。 ・Excelが必要です。 ４．その他 ・ソフトのバージョン指定はありません。 **【教科書】** 授業当日にプリントを配付します。
			【その他（特記事項）】 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタも必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 心理学実験１、心理学実験２、心理学実験３は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。

科目コード	2698323
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**沿岸域の生物多様性と水産資源**
科目区分	専門科目：社会と産業
ナンバリング	320
定員	30名
担当講師	ヘンミ　ヤスヒサ 逸見　泰久 熊本大学名誉教授
日程 実施時間	12月12日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 12月13日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
沿岸域の生物多様性と水産資源の現状を有明海・八代海を中心に解説します。沿岸域は、内陸に比べると気候が温暖で、農業・漁業ともに生産性の高い地域です。しかし、海岸から60km以内の地域に世界人口の4 分の3 が生活するなど、人間活動の影響が大きいため、資源の枯渇、有害物質の蓄積、生物多様性の低下など、多くの問題が起きています。このような環境の悪化は、特に閉鎖性海域で著しく、国内でも、東京湾・伊勢湾・瀬戸内海・有明海・八代海などで大きな問題となっています。

【到達目標】
・環境や生物多様性に関する情報を断片的ではなく、総合的に把握することができる。
・環境や生物多様性に関するデータ（特に図表）の意味を正確に理解することができる。
・正確な情報を元に沿岸域の環境問題や生物多様性が議論できる。

【授業テーマ】
第1回 生物多様性とは何か
第2回 生物多様性を守るために
第3回 沿岸域の環境－潮間帯を中心に－
第4回 干潟・転石・岩礁
第5回 沿岸域の生物多様性
第6回 有明海・八代海の環境と生物
第7回 二枚貝の生物学と保全－アサリ・ハマグリを中心に－
第8回 熊本県の特徴的な生きもの：研究紹介

【学生へのメッセージ】
沿岸域は、距離的には身近な環境ですが、訪れることの少ない環境なのかも知れません。講義では、有明海・八代海を中心に、沿岸域で起きている問題を取り上げ、受講生の身近な環境問題と関連させて議論します。

【受講前の準備学習等】
環境問題、生物多様性やSDGsに関する情報は、新聞やWebなどで豊富に得ることができます。シラバスの内容から判断して、関連する内容の自己学習に努めてください。

【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。

【教科書】
授業当日にプリントを配付します。

科目コード	2698331	**授業概要**	**【授業内容】** 16・17世紀は、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する時代であると同時に、日本が初めてヨーロッパ世界と出会う時代でもあります。本授業では、古文書や古記録などの文字史料だけでなく、絵画を史料として捉え、この時代に日本で制作された初期洋風画という絵画の諸作品を通して、日本とヨーロッパの交流の歴史について考えます。本授業を受講する上で、歴史や美術に関する専門的な知識は必要ありません。16・17世紀の日本とヨーロッパの交流の歴史、この時期の絵画に関心のある方の受講を歓迎します。 **【到達目標】** 16・17世紀は日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する時代であるとともに、日本が初めてヨーロッパ世界と出会う時代であることを理解し、その意義を説明することができる。さらにこの時代に日本で制作された初期洋風画に着目することにより、日本とヨーロッパの交流の歴史について理解し、その意義を説明することができる。 **【授業テーマ】** 第1回 16・17世紀の日本 第2回 16・17世紀のヨーロッパ 第3回 16・17世紀の日欧交流 第4回 初期洋風画の性格と歴史的意義 第5回 初期洋風画の作品紹介と分析① 第6回 初期洋風画の作品紹介と分析② 第7回 初期洋風画の作品紹介と分析③ 第8回 まとめ－16・17世紀の日欧交流と初期洋風画－ **【学生へのメッセージ】** 本授業では、絵画を歴史研究の素材、すなわち史料として用います。皆さんがこれまで学んできた日本史や世界史とはやや違った方法で、16・17世紀の日本とヨーロッパの交流の歴史について考えてみたいと思います。 **【受講前の準備学習等】** 事前学習として次の準備をした上で、授業に出席してください。 ①「初期洋風画」をネットで検索し、その意味と主要な作品名を調べておいてください。 ②主要な作品名をネットで検索し、画像を見ておいてください。 ③その作品を所蔵する博物館や美術館のホームページで、解説が掲載されていれば読んでおいてください。 **【成績評価の方法】** 成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。
学習センター	熊本学習センター		
学習センターコード	43A		
クラスコード	K		
科目名	**16・17世紀の日本と欧州**		
科目区分	専門科目：人間と文化		
ナンバリング	320		
定員	30名		
担当講師	スギモリ　テツヤ 杉森　哲也 放送大学教授		
日程 実施時間	10月17日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 10月18日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10		
実施会場	熊本学習センター		**【教科書】** 授業当日にプリントを配付します。 **【参考書】** ・描かれた近世都市（杉森哲也／山川出版社／¥880／ISBN=9784634544406） ・近世の日本と世界（杉森哲也／放送大学教育振興会／¥3,190／ISBN=9784595325533） 2026年度開設科目「近世の日本と世界」（専門科目：人間と文化）の印刷教材です。

科目コード	2698340
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**西洋建築史研究のエッセンス**
科目区分	専門科目：人間と文化
ナンバリング	320
定員	20名
担当講師	ヨシタケ　リュウイチ 吉武　隆一 熊本大学大学院先端科学研究部准教授
日程 実施時間	11月21日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 11月22日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	この授業は、【熊本学習センター講義室1および★熊本大学五高記念館（2日目3時限）（熊本市中央区黒髪2-40-1　熊本大学内)】で行います。

授業概要

【授業内容】
西洋建築史研究における基本的な用語や各時代の建築についての概要を把握したうえで、古代から近代初期に至るまでの具体的な建築史に関するテーマを取り上げます。これらの諸テーマを通して、西洋建築の歩みを学ぶことの面白さをお伝えしたいと思います。
【到達目標】
学生が西洋建築史研究における基本的な用語や各時代の建築についての概要を把握したうえで、古代から近代初期に至るまでの具体的な建築史に関するテーマを説明できるようになる。
【授業テーマ】
第1回 西洋建築史の基本
第2回 礎としての古代ギリシア・ローマ建築
第3回 キリスト教建築とイスラム建築の誕生
第4回 中世ゴシックの世界
第5回 ルネサンス建築の革新
第6回 古典主義建築の近代
第7回 近代建築をみる熊本大学五高記念館の見学
第8回 まとめ
【学生へのメッセージ】
授業の性格から、予備知識は必要とはしません。できる限り、建築の初心者でもわかるように説明を心がけます。ただし、授業のレベルは決して低くはありません。
【受講前の準備学習等】
西洋の歴史的建築物の中から、皆さんが大事な建築、興味のある建築、好きな建築について考えておいてください。それが、いつ頃、どのようにしてできたのか、誰が作ったのか等の情報を整理しておいてください。
【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及びレポートにより行います。なお、レポートのテーマは『私の好きな西洋建築』です。受講前に調べた情報をもとにまとめてください。

【教科書】
授業当日にプリントを配付します。
【参考書】
・西洋建築史図集 三訂版（日本建築学会編／彰国社／¥2,750／ISBN=9784395000210）

【その他（特記事項）】
第７回授業は、熊本大学五高記念館を見学します。
この授業は、「学生教育研究災害傷害保険」加入者を対象としていますので、未加入の方は必ず前日までに最寄の学習センターにて加入してください。（面接授業開設科目一覧P.5参照）

科目コード	2698358
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**戦国時代論**
科目区分	専門科目：人間と文化
ナンバリング	320
定員	54名
担当講師	イナバ　ツグハル 稲葉　継陽 熊本大学永青文庫研究センター教授
日程 実施時間	12月19日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 12月20日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
日本の「江戸時代」において200年間以上にわたって継続した平和状態（「天下泰平」）は、世界史的にみても稀有な現象であり、この間、日本の社会は経済や文化・思想の面で大きな発展をみたことが知られています。しかし、その時代の直前の「戦国時代」までは、あたかも戦乱が日常ともいうべき社会状況でした。
ほぼ西暦1600年頃を境とした「戦国から平和へ」という日本歴史の大転換は如何にして可能となったか、従来の学説（教科書）を批判しながら、その理由を戦国時代の側から考察し、理解していこうと思います。
【到達目標】
「天下泰平」が実現された歴史的条件について、日本近世史研究の通説を批判的に検討する観点に立って、仮説を示すことができるようになる。
【授業テーマ】
第1回 戦国時代の社会とは
第2回 内戦の中世戦国時代の三つの戦争
第3回 内戦から泰平への転換をどう捉えるか
第4回 戦場の社会史
第5回 平和状態と領域秩序の創出
第6回 戦場の村々の営み
第7回「豊臣平和令」と「天下泰平」
第8回「天下泰平」を支えた力
【学生へのメッセージ】
この授業を通じて、日本社会の歴史の世界史における特殊性、それを踏まえた平和主義の未来への可能性について考えてほしいと思います。
【受講前の準備学習等】
参考図書にあげた書物に目を通してきてください。
【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。

【受講者が当日用意するもの】
筆記用具等通常の受講準備をしてきてください。
授業はその都度配布するプリント等を用いて展開します。
【教科書】
教科書は使用しません。
【参考書】
・新版雑兵たちの戦場ー中世の傭兵と奴隷狩り（藤木久志／朝日新聞出版／¥1,430／ISBN=9784022598776）
・刀狩り―武器を封印した民衆―（藤木久志／岩波書店／¥1,166／ISBN=9784004309659）
・村と民衆の戦国時代史―藤木久志の歴史学―（稲葉継陽・清水克行編／勉誠社／¥3,300／ISBN=9784585325222）
・細川家史料と史跡が伝える近世初期キリシタンの信仰と逡巡―禁教をめぐる群像（稲葉継陽編／勉誠社／¥3,850／ISBN=9784585320913）

科目コード	2698366
学習センター	熊本学習センター
学習センターコード	43A
クラスコード	K
科目名	**地史・古生物学**
科目区分	専門科目：自然と環境
ナンバリング	320
定員	20名
担当講師	コマツ　トシフミ 小松　俊文 熊本大学大学院先端科学研究部教授
日程 実施時間	10月24日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 10月25日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	熊本学習センター

授業概要

【授業内容】
生命の誕生後、生物は放散と絶滅、回復を繰り返しながら進化を遂げてきました。この授業では主に化石記録に基づいて顕生累代以降の生物の出現や放散，絶滅および大量絶滅とその後の回復過程などに注目して授業を進めます。授業の前半は特にカンブリア紀の生物の出現やオルドビス紀の海洋生物の放散とオルドビス紀～石炭紀における動植物の陸上への進出について紹介し、後半は主に九州の最新のデータに基づいて中生代、特に白亜紀後期の恐竜などを中心とする陸生動物相と中生代の海洋革命（Mesozoic Marine Revolution）について紹介します。
【到達目標】
顕生累代における生物の出現や放散，絶滅および大量絶滅とその後の回復過程などについて具体的な例を説明することができる。
【授業テーマ】
第1回 イントロダクション：地質時代と国際標準模式層断面および地点（ＧＳＳＰ）
第2回 カンブリア紀の有殻微小化石動物群（SSF）とカンブリア紀爆発
第3回 古環境の復元方法
第4回 オルドビス紀における海生動物の放散と節足動物と苔類による陸へ進出
第5回 初期陸生植物と昆虫の放散
第6回 デボン紀後期～末期の大量絶滅および絶滅事変
第7回 中生代の海洋変革（MMR）
第8回 日本列島最後の恐竜：甑島列島の白亜紀後期～末期の脊椎動物化石
【受講前の準備学習等】
シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。
【成績評価の方法】
成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。

【教科書】
授業当日にプリントを配付します。